

市政に対する

一般質問

一般質問は、12月12日・13日・14日の3日間にわたり16人の議員が活発な論戦を展開しました。

※質問・答弁とも質問者が要約しました。

人材育成基本方針を生かし

持続可能なまちづくりを

田口 初江

(問) 3月に策定された「吉川市人材育成基本方針」で、吉川市が求める職員像は「チャレンジ精神と経営センスを持ち、絶えず自己と仕事の変革に取り組み職員」とされ、これに近づくように職員は常に努力しなければならぬと定められている。

厳しい財政状況の下、持続可能な自治体運営のためには、職員の意識改革と資質向上が不可欠である。この基本方針を全職員が共有し、積極的に取り組むべきと考えるが、ご見解は。

(答)市長 限られた行政資源の中で充実した行政サービスを提供



吉川市品質マニュアル

していくためには、職員の資質の向上や意識改革が不可欠であると考えている。限られた予算の中においても、職員研修の内容の充実に努めるとともに、ISO9001の取り組みや事務事業評価制度の導入などを通じて、職員の資質向上や意識改革に取り組みできている。また、常に問題意識を持ち、どうあるべきかといった視点で仕事にあらたることができる職員を育成していくことが重要と考えている。

教育行政の現状と課題

(問) 教育行政を取り巻く環境が急激に変化しているが、市の教育行政の重要な課題は何か。

(答)教育長 特色ある学校づくりの推進や基礎基本の徹底など、子どもが自ら学び、自ら考える

「生きる力」を養う教育を推進している。教育は人なりと言われるように、教職員の配置や資質の向上は重要な課題の一つであると考えている。引き続き、教育環境の整備に努めていく。

(問) 駅南地域の学校建設について、どのように考えているか。

(答)教育長 小学校と中学校が必要になると考えている。児童・生徒数の推移状況を十分に勘案しながら対応し、よりよい教育環境を最優先に考えていく。

慢性的病気を持つ
児童生徒の支援を

玉川 正幸

(問) 学校では最近、社会環境の変化と複雑化していくなかで、いじめや不登校、薬物乱用、生活習慣病など、子どもたちの心や体に様々な影響を及ぼしています。

その中で、慢性的病気を持つ子どもたちが多くなってきたいます。子どもたちの病気は様々で、心臓病や喘息など、いろいろな疾病を抱えた子どもたちが在学しています。

そのようななかで、みんなと一緒に行動できず「さぼっている」などの誤解をされてしまうこともあるでしょう。そのようななかで子どもたちの心身の成長に大きな影響を与えることとなります。

心豊かでたくましく子どもたちが成長するためには、学校で子どもたちの健康管理や健康教育の推進を積極的に取り組むことが大切であると考えます。慢性的病気を抱えた子どもたちの把握と支援にはどのような配慮をしているのか伺います。

(答)教育部長 吉川市の児童生徒についても心配される事例があると学校から報告を受けているところ。病気を持つ子どもたちの把握と支援については、就学時健康診断や、保護者が子どもの疾病状況や健康状態などを申告する「保健調査票」で把握して、一人ひとりに応じた健康管理を行っています。

学校で突然病気を発病した場合などは、養護教諭が症状を確認し迅速な処置を行い、養護教諭が不在の場合でも対応マニュアルに沿って、保護者・病院等と連携し対応できるようになっています。

様々なハンディキャップを持つ子どもが多くなります。そこで

子どもたちにも互いに支えあう思いやりの気持ちを育てる「心の教育」を道徳の授業や学級活動を通じて指導し、推進しているところです。

今後の指定管理者制度に
移行する公共施設について

松崎 誠

(問) アウトソーシングの積極的な活用により、施設の管理コストの削減を図り、また、行財政改革の推進という観点からも、全庁的に取り組んでいただき、より良い公共サービスとスリムで効率的な市役所を目指していただき、吉川市民がもっとよりよい公共サービスを受けられるよう公共施設の管理運営のあり方について質問。当市でも平成18年4月から第3保育所、老人福祉センターにアウトソーシングとしての指定管理者制度を導入し、管理運営を委託しております。今後の指定管理者制度へ移行する公共施設において多くの市民の方々も高い関心を持って推移を見守っているようにも見受けられます。公共施設と